

東京都つながり創生財団の事業について（報告）

令和5年12月21日
東京都つながり創生財団

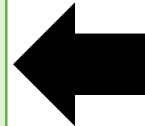
取組の主体

区市町村への支援

役割
分担

区市町村・国際交流協会
外国人に最も身近な行政機関等として、
地域の実情を踏まえた
地域日本語教室の取組の充実を図る

東京都・東京都つながり創生財団
① 区市町村等の取組を支援
② 連携・協働を推進
③ 区市町村等単独では対応が困難な課題へ
対応



地域の実情に応じた体制づくりを支援することで、東京全体の体制を強化していく

具体的な取組

役割分担に基づき、以下の取組を実施し、区市町村の取組を支援

① 区市町村等の取組を支援



【継続】 東京都地域日本教育の総合的な体制づくり推進事業

② 連携・協働を推進



【継続】 地域日本語教育コーディネーター連携会議（会議・研修会）
【継続】 東京都・区市町村連絡会議等を活用した情報共有

③ 区市町村等単独では対応が
困難な課題へ対応



【新規】 初期日本語教育モデル事業「はじめての日本語教室」
【新規】 地域日本語教育に関する専門研修
（日本語学習支援者スキルアップ研修）
【継続】 東京日本語教室サイト／総括コーディネーターの配置

地域日本語教育コーディネーター連携会議（1）

■ 第1回 地域日本語教育コーディネーター連携会議

➤自治体や国際交流協会で地域日本語教育事業を担当している職員が、実施している事業や課題などについて、情報共有や意見交換を行った。

○開催日：令和5年7月27日（木）9:30～11:30

○会場：新宿NSビル 3階会議室

○参加者：地域日本語教育コーディネーター等 30名（内、傍聴 5団体7名）

○内容：「地域日本語教育の体制づくり」に関する情報共有と意見交換

○ゲストスピーカー：神吉宇一 氏
（武蔵野大学 グローバル学部 日本語コミュニケーション学科 教授、
東京の地域日本語教育に係る調整会議 委員）



地域日本語教育担当者の意見（意見交換・アンケートから）①

●多くの地域で、地域日本語教育の充実のために取組を強化したり、改善を図っていることが分かった。自分の地域でも、良いところをまねて充実させていきたい。 神吉先生や財団の皆さまからご助言をいただいたのも参考になった。

●専門家の意見を伺えたことが、本当にありがたかった。区市町村では、専門家の意見を伺う機会が少ない。

※文化庁の補助金について、申請期間などの点で利用しやすくしてほしいといったご意見もいただいた。

地域日本語教育コーディネーター連携会議（２）

地域日本語教育担当者の意見（意見交換・アンケートから）②

- 日本語教室から、会場が優先予約できないため、同じ場所・時間で開催することが難しいという意見がある。教室によって教え方や教材に差があるとも感じる。新たなボランティアを育成することも役割だと考えている。コーディネーターが必要だが、他の地域ではどのように選出しているのか。
- 地域の日本語教室の始め方、活躍してもらえるボランティアの育成、日本語教室と地域のつなげ方などを知りたい。行政としての取り組み方が課題。
- ボランティア養成のコツや、コーディネーターの役割を知りたい。行政とボランティア日本語教室との、よい連携の事例を紹介して欲しい。
- どの地域も少人数（または兼任）で取り組んでいるが、急増する外国人住民への対応が間に合うか不安。
- 在住外国人に、日本語教室をどのように周知すればよいのか。
- 日本語教室に通いづらいエリアの外国人住民や、区の教室が開講していない時期のために、区境や近隣沿線での日本語教室の情報や、ボランティアのシェアなど、他区さんのお力も借りられるとありがたい。
- 事業イメージをつかむため、他の自治体の、予算希望や運営体制（人員数、役割等）、事業評価指標などを具体的に知りたい。
- 各区市町村が実施している地域日本語教育事業を調査して、一覧にして欲しい。
- 課題が地域ごとに異なると思うので、地域の課題に合った情報交換が、小グループでできるといい。 ●テーマを決めて集中的に情報交換をしたい。（⇒11月14日に意見交換会を実施）
- 先進的な取組をしている地域の視察ツアーをしたい。 ●他地域の日本語教室を見学したい。
- 日本語教室など、現場の方向けにも、東京都の地域日本語教育体制の方針（役割分担や、どのような教室活動をするかなど）を知らせて欲しい。（⇒1月に「地域日本語教育に関する専門研修」を開催予定）

地域日本語教育コーディネーター連携会議（3）

■ 地域日本語教育の体制づくり担当者向け研修会

➢自治体や国際交流協会が地域日本語教育事業を担当している職員等を対象として、地域日本語教育に関する研修・事例紹介と、意見交換会を開催した。

○開催日：令和5年11月14日（火）
[第1部（研修・事例紹介）] 13:00～15:00
[第2部（意見交換会）] 15:10～16:00

○実施方法：オンライン（Zoomミーティング）

○参加者：[第1部] 42名 [第2部] 15名

○基調講演：嶋田和子先生
（アクラス日本語教育研究所 代表理事）

○事例紹介：内山夕輝氏
（公益財団法人浜松国際交流協会 主幹）

「浜松市地域日本語教育推進アクションプラン」
https://www.hi-hice.jp/ja/information/topic/i_129565/

参加者の意見（質疑応答・意見交換会・アンケートから）①

●それぞれの地域・自治体で「実際に何を、どのようにやっているか」をうかがえることは大変重要だと改めて感じた。実際に現場に立っていらっしゃる職員の方目線で情報交換できる場は大変有難い。

地域日本語教育の体制づくり担当者向け研修会

令和元年6月の「日本語教育の推進に関する法律」の公布・施行を受けて、地域日本語教育の体制づくりに取り組む自治体が増えています。

そこで、自治体や国際交流協会等で多文化共生事業を担当している方などを対象に、地域日本語教育の体制づくりに関する制度や、自治体に求められる役割について考えるための研修会をオンライン（Zoom）で開催します。第1部で研修（基調講演と事例紹介）、第2部で意見交換会を行いますので、情報を得るだけでなく、他地域の担当者と情報交換をしたり、講師からアドバイスをもらうこともできます。

また、第1部の研修は、地域の日本語教室で支援をされている方や、日本語以外の在住外国人支援をされている方もご参加いただけます。国や自治体の取組を知り、地域での活動や連携に役立つ内容となっていますので、地域日本語教育に関心のある多くの方のご参加をお待ちしています！

令和5年11月14日（火曜日） [第1部]13:00-15:00 [第2部]15:10-16:00

[第1部 研修（Zoom ウェビナーで開催、定員80名）]

●基調講演：嶋田 和子 氏【アクラス日本語教育研究所 代表理事】

令和5年度は日本語教育に関する法整備が進んだり、文化庁が参照枠の活用を進めたりしているため、現在の地域日本語教育の潮流について知り、自治体職員の立場で意識化して取り組むべき内容について考えます。

●事例紹介：内山 夕輝 氏【公益財団法人浜松国際交流協会 主幹】

浜松市が令和5年度に策定した「浜松市地域日本語教育推進アクションプラン」について、プラン策定に先立って実施した調査の内容や、体制づくりをどのように進めたかについて事例紹介します。

[第2部 意見交換会（Zoom ミーティングで開催、定員30名）]

ブレイクアウトルームに分かれて、他地域の多文化共生事業の担当者と情報交換などを行います。

◇対象：自治体や国際交流協会等で多文化共生事業を担当している方

第1部は、地域の日本語教室で支援をされている方や、日本語以外の在住外国人支援をされている方のご参加お待ちしております。第2部は、自治体や国際交流協会等の職員のみ参加できます。

◇申込：以下のフォームにアクセスしてお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/rXGrrJ8iSe> <締切:令和5年11月6日(月)>



◇参加費：無料 ◇主催：公益財団法人東京都つながり創生財団・東京都

【問合せ】公益財団法人東京都つながり創生財団 多文化共生課 伊藤・渋谷

Tel: 03-6258-1236 Mail: nihongo@tokyo-tsunagari.or.jp

文化庁 令和5年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用



地域日本語教育コーディネーター連携会議（４）

参加者の意見（質疑応答・意見交換会・アンケートから）②

- 浜松市が開催している日本語教室はかなりのボリュームだが、途中で抜ける学習者はどのくらいいるのか。区では1割くらい途中で抜けてしまうが、できれば全員続けて欲しいと思っている。
⇒（内山氏）途中離脱の悩みは私たちもある。途中で仕事が見つかったり、介護が始まったりして日本語教室をやめてしまうことがあり、生活者なので引き留めることは難しい。委託元の市には、ある程度は必要減として理解して欲しいと伝えている。
- 浜松市では多岐に渡る事業を実施しているが、評価をどうしているのか聞きたい。アクションプランやKPI項目が掲げられたとあったが、事業全体で進めていることなどはあるか。
⇒（内山氏）事業全体の評価というと、市から引続き委託を受けられるかが国際交流協会としての評価になるかと思う。また、文化庁の補助金を受ける際には定量評価と定性評価を出すように言われるが、これは市の所管課と話し合いながら決めている。教育効果を見せるのは、生活者が対象だと難しい。そこで、市の委員とか、学校のPTA役員とか、自治会の役員とかに何人推薦したか、またその結果何人活動したかなどを見せるようにしている。
- 離婚されたので、親権を取るために日本語を勉強しなければいけなくなったという相談を受けることがある。問題に突き当たらないと日本語学習を頑張ろうという気持ちにならない人も多いと思うので、事前にお伝えする機会があればいいのかなと思う。
- ボランティア養成講座をやっているが、講座に参加した方がなかなかボランティア活動に参加しないという課題がある。これまでは講座が終わった後に教室一覧を渡すだけだったが、それだとどんな団体か分からず行きにくいようだ。そこで、ボランティアさんたちに来てもらって、実際に顔を合わせて話したら活動を始めることにつながった。次回は見学会もできるといい。
- ボランティアさんに交通費をお支払いするかどうか。有償ボランティアなのか無償ボランティアなのか難しい。
- 市では、活動に参加している半分以上の方が有資格者だが、文法積み上げではなく、生活で必要となる日本語や、危機管理の事例、子供がいる場合のニーズに応じたものなど、教科書にないものを個別にピックアップしてグループ活動を行っている。有資格者が多いが、有資格者でなくてもいい活動をする方もいて、むしろ、有資格者だが経験が少ない人だと、情報を出しすぎてしまうこともあり、事務局がフォローしている。ここでこの情報を出したほうがいいという市民力で、バランスよく活動してくれている。
⇒（嶋田先生）日本語教室にどれだけ有資格者がいるかは教室によって様々。初期日本語教育を行うために、有資格者だけで活動しているという教室もあるが、全具有資格者でなくてもできる活動があるのでは。有資格者がいない教室や、一人のところもある。

初期日本語教育モデル事業 「はじめての日本語教室」(1)

■ 初期日本語教育モデル事業の実施・検討

➢ 自治体による実施が求められている初期日本語教育について、モデルとなる日本語教室を開催し、実施方法や内容について有識者等と検討する。

○開催日：[午前コース] 10/17~12/19 (火) 13:00~15:00
[夜コース] 10/18~12/20 (水) 19:00~21:00

○実施方法：オンライン (Zoomミーティング)

○広報：

- ・都を通じて区市町村に通知とチラシを送付 (一部の自治体には財団から電話でも依頼)
- ・区市国際交流協会や市民団体等のネットワークに案内
- ・「多文化共生ポータルサイト (TIPS)」に掲載

○使用テキスト：『いどころ 生活の日本語』

<https://www.irodori.jp.f.go.jp/>

(モデル事業で『いどころ』を利用した理由)

- ・「入門」「初級1」「初級2」の教材があり、初期日本語教育に向いている。大量の副教材も含めて無料で利用できる。
- ⇒自治体が日本語教室を開催する際にも、無料なので使いやすい。
- ・多言語の教材があり、学習者が希望する言語のテキストを使える。
- ・オンラインで教材を使用する際には著作権に注意が必要だが、使用できる範囲が明記されていて安心して使える。
- ・参照枠に対応したカリキュラムを作りやすい。
- ・自主学習をする場合は、オンデマンド講座が無料で受けられる。

参加者

○申込者数 71名
(午前コース34名/夜コース37名)



○参加者数 45名
(午前コース19名/夜コース26名)

※都外在住者や、明らかに日本語レベルが高いと思われる方などは除き、それ以外の方は定員を増やして受け入れた。

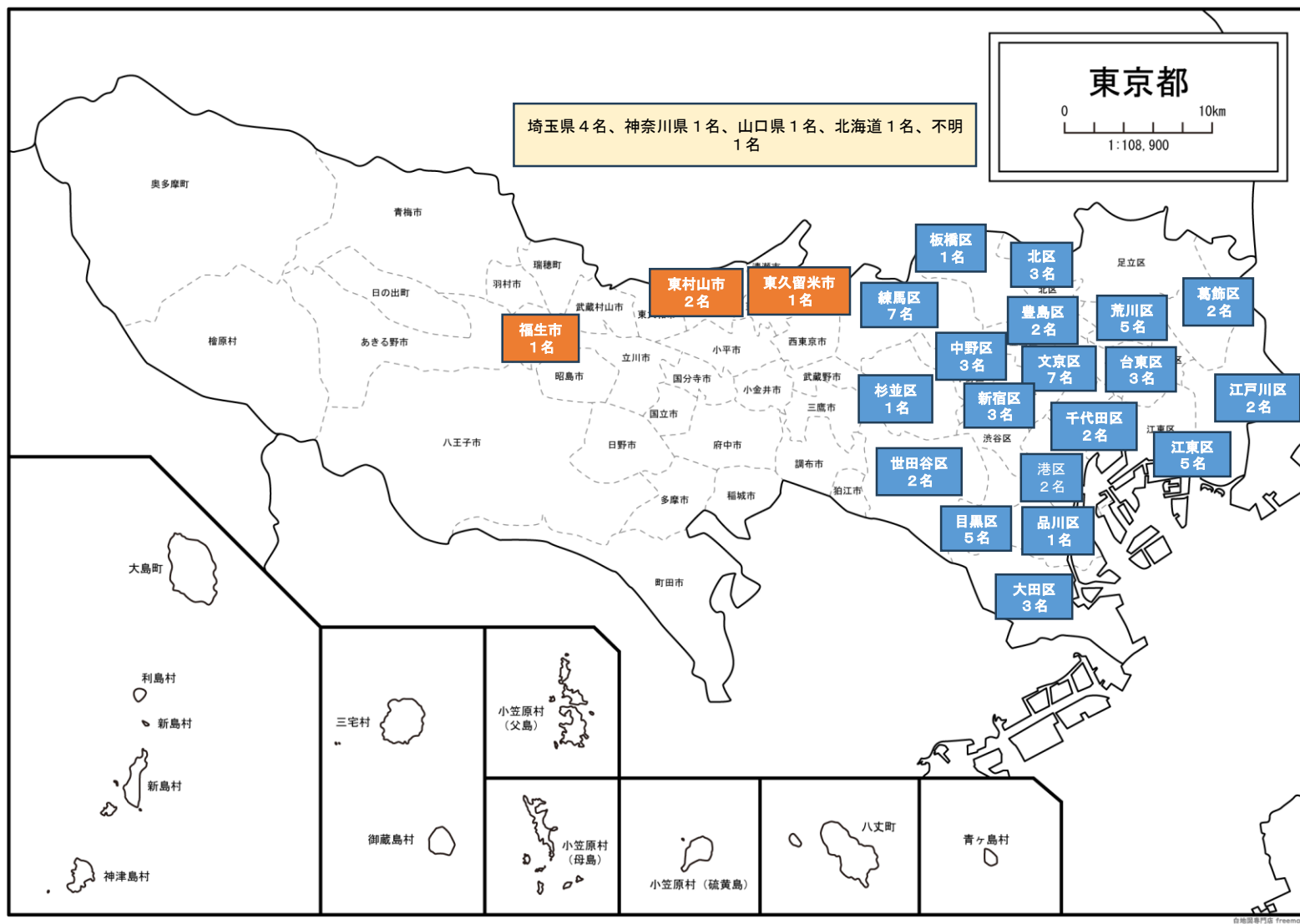
○国・地域別

- ・中国35名⇒21名
- ・ベトナム8名⇒3名
- ・韓国3名⇒2名
- ・台湾3名
- ・フィリピン3名⇒2名
- ・インド3名⇒2名
- ・シリア2名⇒1名
- ・日本2名⇒1名
- ・リベリア2名⇒1名
- ・その他1名 (アメリカ、イギリス、イタリア、ウクライナ、ギニア、タイ、ドイツ、ネパール、バングラデシュ)
- ・フランス1名⇒0名

ボランティア

○午前コース10名/夜コース15名

初期日本語教育モデル事業 「はじめての日本語教室」(2) <区市町村別 申込人数>



初期日本語教育モデル事業 「はじめての日本語教室」(3) <学習者募集ちらし>

学習内容は、受講動機などを
見て一部変更

ONLINE

オンライン・在线课程・온라인・Lớp online

はじめての日本語教室

Japanese Class for Beginners
第一次上日语课 처음 배우는 일본어 교실
Lớp học tiếng Nhật cho người mới bắt đầu
Unang pag aaral ng Japanese language

にほんごきょうしつ

お金は1,000円です Material Fee:1,000 yen 教材費:1,000円 教材:1,000円
Phi tài liệu:1000 yên Bayad sa materyales sa pagtuturo:1,000yên

こんにちは。
いつ日本へ
来ましたか。

ZOOM

こんにちは。
1年前に日本へ
来ました。

ありがとうございます。
元氣です。

はじめて日本語を勉強する外国人のためのオンラインの「日本語教室」です。
An online "Japanese language class" for foreigners studying Japanese for the first time.
为了初次学习日语的 외국인 开设的在线「日语课程」。
처음 일본어를 배우는 외국인을 위한 온라인「일본어 교실」입니다.
"Lớp học tiếng Nhật" online dành cho người nước ngoài mới bắt đầu học tiếng Nhật.
Ito ay isang online na class para sa sa mga dayuhan na first time na magaaral ng Japanese language.

申し込みできる人
Eligibility
申請対象
신청대상
신행받을 수 있는 분
Người có thể đăng ký học
Maaring magaplay ang mga sumusunod

① はじめて日本語を勉強する人

- First-time Japanese learners ● 初次学习日语者
- 처음 일본어를 배우는 분 ● Người mới bắt đầu học tiếng Nhật
- Mga taong first time na magaaral ng Japanese language

② 東京に住んでいる人(16歳以上)

- Residents of Tokyo (16+) ● 住在东京 (16岁以上)
- 도쿄에 거주 중인 분(16세 이상) ● Người sống ở Tokyo (trên 16 tuổi)
- Mga residente ng Tokyo prefecture (16 years old pataas)

コースが2つあります
There are 2 courses available.
有两种课程可供选择
2가지 코스가 있습니다.
Có 2 lớp
May 2 klase ng pag aaral

午前コース
Morning Course
火曜日 10:00 ~ 12:00
10月17日~12月19日
・Tuesdays 10:00 - 12:00
・October 17 to December 19

夜コース
Evening Course
水曜日 19:00 ~ 21:00
10月18日~12月20日
・Wednesdays 19:00 - 21:00
・October 18 to December 20

「はじめての日本語教室」で勉強することや申し込み方は、裏を見てください。
● Please see the reverse side for how to apply. ● Về nội dung chi tiết và cách đăng ký học, hãy xem ở mặt sau.
● 詳細内容や申し込み方は、裏面を御覧ください。 ● Tingnan sa reverse side ng papel ang detalye at paraan ng pagrehistro.
● 상세한 내용과 신청 방법은 뒷면에서 확인하시기 바랍니다.

日とちと時間 Dates and Times / 日期和时间 / 일과시간
Ngày và giờ học / Araw at oras

Morning Course: Tue
上午课程：星期二 10:00
Lớp buổi sáng: Thứ ba 10:00-12:00
Pang umagang kurso: Martes 10:00-12:00

	午前コース 火曜日 10:00~12:00	夜コース 水曜日 19:00~21:00	
1	10月17日 October 17	10月18日 October 18	あいさつをしてみましょう! - Let's Say Hello - 打招呼 - 인사하기 - Chào hỏi - Pagpat
2	10月24日 October 24	10月25日 October 25	にほんごがわからないとき、どうしますか?! - Conversations When Not Knowing Japanese - 不懂日语时的对话 - 일본어를 잘 모를 때 이야기 - Hội thoại khi không biết tiếng Nhật - Paki pagpapalapag di manungngang pagpapali ng Japanese
3	10月31日 October 31	11月1日 November 1	じょしよかいをしましょう! - Introducing Yourself - 自我介绍 - 자기소개하기 - Tự giới thiệu bản thân - Pagpapakilala sa sarili
4	11月7日 November 7	11月8日 November 8	たべものやののみのんについて はなしましょう! - Talking About Food and Drinks - 讨论食物和饮料 - 음식 음료를 대해서 이야기하기 - Nói chuyện về đồ ăn và đồ uống - Pagusap tungkol sa pagkain at inumin
5	11月14日 November 14	11月15日 November 15	ファストフードへいってきましょう! - Going to Fast Food - 前往快餐店 - 푸스트푸드점에 가기 - Đi ăn đồ ăn nhanh - Pagpunta sa fast food
6	11月21日 November 21	11月22日 November 22	いろいろなへやをみましょう! - Looking at Various Rooms - 参观各种房间 - 다양한 방을 보기 - Xem nhiều căn phòng - Patingin sa iba't ibang silid
7	11月28日 November 28	11月29日 November 29	しょくばのかいわにトライ! - Workplace Conversations - 工作场所的对话 - 직장에서 대화하기 - Hội thoại nơi làm việc - Palkipag-usap at pagtatala sa trabaho
8	12月5日 December 5	12月6日 December 6	ともだちをさそってきましょう! - Inviting Friends - 邀请朋友 - 친구를 초대하기 - Mời bạn bè - Pagbibiti sa mga kaibigan
9	12月12日 December 12	12月13日 December 13	バスやでんしゃにのってきましょう! - Taking the Bus or Train - 乘坐公交车和地铁 - 버스나 전철에 타기 - Đi xe buýt hoặc tàu điện - Paglalayag sa bus at train
10	12月19日 December 19	12月20日 December 20	ショッピングモールへいってきましょう! - Visiting a Shopping Mall - 前往购物中心 - 쇼핑센터에 가기 - Đi trung tâm thương mại - Pagpunta sa shopping mall

※勉強のテーマは、変わることがあります。 (授業内容変更発表者 株式会社インテークールト日本語学校)

● 右のQRで申し込んでください(2023年8月25日~9月22日)
Please register via the QR code on the right (from August 25 to September 22, 2023).
请通过右侧的QR码进行报名(2023年8月25日~9月22日)
오른쪽에 있는 QR을 통해 신청하시기 바랍니다.(2023년 8월 25일~9월 22일)
Hãy đăng ký qua mã QR ở phía bên phải (25/8/2023 ~ 22/9/2023)
Paki scan ang QR code sa kanan para sa pagrehistro (August 25 hanggang ~ September 22, 2023)

● 勉強できる人：30人まで(1コース)
Enrollment: Up to 30 participants per course.
招生：每门课程最多30人
모집：각 코스 30명
Tuyển sinh: Mỗi lớp 30 người
Recruitment: 30 katao sa bawat kurso

● 教材費(勉強で使う資料のお金):1,000円
Material Fee: 1,000 yen
教材費:1,000日元
教材:1,000円
Phi tài liệu: 1,000 yên
Bayad sa materyales sa pagtuturo:1,000yên

※申し込みをした人が多いときは、誰が勉強できるか、選びます。
申し込みをしても「はじめての日本語教室」で勉強できるかどうか、まだ分かりません。
→10月5日までにメールを送りますから、必ず見てください。
If the number of applicants exceeds available slots, a selection process will be conducted. We will inform you by email regarding your acceptance by October 5.
如果申請人数过多，我们会进行筛选。我们会在10月5日通过电子邮件通知您是否录取。
신청 인원이 다수인 경우 신청을 통해 선발됩니다. 수강 가능 여부는 10월 5일까지 이메일로 확인됩니다.
Trường hợp số lượng người đăng ký đông, thì sẽ tiến hành tuyển chọn. Chúng tôi sẽ thông báo về việc có thể nhập học hay không bằng email trước ngày 5 tháng 10.
Kung marami ang nagpaplay Pipili at magpapadala ng notice via email kung matatanggap o hindi until Oct 5

質問があるとき：ひらがなネット株式会社 03-6658-5414 (月曜日~金曜日 10:00~16:00)
Inquiries when you have a question: ひらがなネット株式会社 (日本橋区豊洲4丁目1番1号)
Pala sa mga katanungan: nihongo@hiragana-net.com

主催 東京都つなぐり創生財団
東京つなぐり創生財団
主催 東京都つなぐり創生財団
東京つなぐり創生財団

初期日本語教育モデル事業 「はじめての日本語教室」(4) <ボランティア募集ちらし>

日本語教室 学習支援者の皆様へ
東京都・区市町村・国際交流協会 職員の皆様へ



「はじめての日本語教室」ボランティア募集

東京都つながり創生財団が主催するオンライン日本語教室に、ボランティアとして参加して下さる方を募集します。

「はじめての日本語教室」は日本語教師が全10回の授業を実施します。ボランティア参加回は、そのうち4回です。授業の一部に参加して、会話の練習相手をして頂きます。日本語教室で支援の経験がない方も、ぜひご参加ください。

1. 依頼内容 学習者2名~3名に対し、ボランティア1名のグループをつくり、授業の最初15分、前回授業の復習を目的とした「会話練習」や「ロールプレイ」をする際の相手役をお願いします。
2. 参加日 「はじめての日本語教室」は週1回、10回授業を実施します。午前コースと夜コースがあり、ボランティア参加回は各コースで4回あります。

ボランティア参加	午前コース (火曜日) 10時から15分程度	夜コース (水曜日) 19時から15分程度
1回目	11月7日	11月8日
2回目	11月21日	11月22日
3回目	12月5日	12月6日
4回目	12月19日	12月20日

3. 事前説明会 (Zoom開催) ※参加必須
午前コース参加者 10月31日(火) 10時~11時
夜コース参加者 11月1日(水) 19時~20時

4. 申込できる方 (①~⑥の全てに該当する方です。)
- ① 都内日本語教室で活動経験がある方又は今後活動したい方、都内区市町村職員、都内国際交流協会職員、都職員のいずれかに該当する方
 - ② 学習者、講師、運営者とともにチームの一員として授業をつくる活動をしたい方
 - ③ やさしい日本語について知識がある方
 - ④ 事前説明会に参加できる方
 - ⑤ 事前説明のとおり講師が考える授業計画に合った活動ができる方
 - ⑥ ご自身のパソコン等でZoomを操作できる方

5. 申込 参加申し込みは、右のQRコード又はURLからお願いします。

<https://forms.office.com/r/AQbZiisNRC>

申込期間 9月29日(金)~10月18日(水)まで



※10月25日(水)までに参加日をメールでお知らせします。
※申込者多数となった際は、全4日に参加できる方を優先した上で、申込フォームで伺う参加希望日の中から、参加日を調整させていただきます。

6. その他
 - ・参加時間(15分)が終了後、Zoomを退室して頂きます。授業見学はできませんが、授業の録画は視聴できます。ボランティア参加回の前回授業の録画を参加者のみに限定公開します。
 - ・申し訳ありませんが、報酬はありません。

7. ボランティア参加時の会話例

(例1) 自己紹介の学習後の会話練習
ボランティア: はじめまして、○○です。
よろしくをお願いします。
受講者1: はじめまして◎◎です。
(国名)から来ました。
よろしくをお願いします。
ボランティア: ◎◎さんは、(国名)からですか。
受講者1: はい、そうです。
ボランティア: △△さんも、(国名)からですか。
受講者2: いいえ、(国名)じゃないです。
(国名)からです。

(例2) ファストフード店での会話学習後の
ロールプレイ
店員: いらっしゃいませ。おうかがいします。
客: チーズバーガーのセット、ください。
店員: チーズバーガーのセットですね。
ドリンクは何にさせていただきますか。
客: じゃあ、コーラ、お願いします。

※学習者とボランティアが役割を交代して繰り返します。

- ・会話練習のため、受講者に言い間違いがあっても、そのまま自然な会話を続けてください。
- ・文法説明や、正しい使い方の説明は不要です。

「はじめての日本語教室」とは

東京都つながり創生財団が「初期日本語教育のモデル事業」として実施する日本語教室です。区市町村が初期日本語教育を実施する際のモデルとして、日本語教室の実施体制や講義内容等を検証し、検証結果等を区市町村へ提供します。また、東京都が主催する「東京の地域日本語教育に係る調整会議」等にも報告する予定です。
今回のボランティア募集は、区市町村が日本語教育の専門家による日本語教室を開催する際、市民団体が運営する地域日本語教室と連携することを想定し、検証を行うことを目的としています。



公益財団法人
東京都つながり創生財団
Tokyo Metropolitan Foundation "TSUNAGARI"

問い合わせ先 公益財団法人 東京都つながり創生財団
(多文化共生課 地域日本語教育事業担当)
電話番号 03-6258-1236
E-mail: nihongo@tokyo-tsunagari.or.jp

初期日本語教育モデル事業「はじめての日本語教室」(5)

■ 初期日本語教育に関する検討会 ※「ワーキング」から名称変更

➤モデル事業の実施方法や内容などについて、有識者等の意見をいただきながら実施する。また、自治体による初期日本語教育の実施を促していくために、どのような課題があるかなどを検討する。

【検討会参加者】日本語教育の専門家及び関係者（大学、社会福祉法人、日本語学校、日本語教育を実施している市民団体、都内国際交流協会、都内区市町村）

第1回検討会（8/9）

●参照枠などの国が進めている政策は、地域で活動している方は参考程度に聞いてもらえるといのでは。ただ、専門家として日本語教育を実施する場合は、参照枠や生活candoを実施してことのメリットを理解して欲しい。「いどり」も、ちゃんと理解して教材を使うのか、なんとなく楽しげだから使うのでは、成果として出てくるものが全く違う。

●初期日本語教育を20時間実施しても、A1レベルにはおそくならない。少なくとも、こういことができるようになった、日本語を勉強してよかった、もっと勉強したいと思ってもらって、地域の教室などにつながっていくようなモデルとなるといではないか。20時間でどこまで進みたいと考えるのかを示さないと、連携する日本語学校もカリキュラムを作れないのでは。

●地域日本語教育の体制の中で、このコースがどこに位置づけられるのかを示さないと、区市町村が参照しにくいのではないか。

●地域の日本語教室に来る人は、外国語をいくつも勉強してきたような人は少なく、文法になじみがない。そのような人を地域の日本語教室につなげるためには、文法を教えるより、少しでも日本語を言えるようになっていて欲しい。ゼロの人はボランティアが対応できるレベルではなく、みんな手探りでやっているの、A1までは行政で保証して欲しい。その先は地域の日本語教室でお手伝いできる。

●日本語レベルの高い学習者がいるとゼロの人が遠慮してしまうので、定員に満たなくてもゼロの人だけにして効果を測定したほうがいい。学生ではないので、予習復習は難しい。週に1回日本語教室に来て、残りの6日は仕事や子育てなどで日本語の勉強はできないと思った方がいい。

初期段階の日本語教室を週何日実施するかについては、「初期段階は毎日学ぶことが大事」という意見に対し、たしかに集中して行わないと積み上げが難しいという意見や、生活者はその人によって都合が違う、という意見が出た。今回は週1回実施して様子を見る。また、今回のモデル事業では、日本語教育の入り口として会話練習を行い、地域の日本語教室につないでいくことを目指すこととし、10回の講義で、日本語の最初の一步となると共に、地域とつながるための最初の一步となる学習内容を検討した。

初期日本語教育モデル事業 「はじめての日本語教室」(6)

第2回検討会 (10/13)

- (事務局) 今回のモデル事業は3教室を2回開催するという規模の大きい内容のため、広報、運営、日本語教育とすべてを行ってもらう仕様書だと受託業者が限られると考えた。そこで、広報・運営と日本語教育の二つに分けて委託している。それでやりやすかった部分もあるが、先生が自由にブレイクアウトルームに分かれたり戻ったりということは難しくなってしまう、ボランティアさんの入ってもらい方にも制限ができてしまった。
- 実際にはもっと小さい規模で、教師が一人でZoomの会議室を運営しながらブレイクアウトルームに移動したりするのではないか。
- うちの日本語教室でも同時に何教室か開催することがあるが、メインルームに誰か残っていないとヘルプコールに先生が対応しなくてはいけなくなって落ち着かない。やはり入退室確認や、ヘルプに応える人が必要。でももう少しバリエーションの可能性があるので思う。
- 定員に関しては、私も文化庁の事業を受託していて、定員に満たないと心配になる。ただ、やはり国の事業として実施している以上、その目的に応じて、ターゲットになっている人たちに来てもらう必要がある。それでもレベルが高い人が入ってきてしまうことがあるが、レベルが違ったと思って自分で抜ける人もいるし、周りを邪魔せずに参加している人もいる。定員にならなかったとしても、全然問題ないと思った方がいい。
- 地域の日本語教室は、やさしい日本語で話ができるくらいの人たちであれば、大きな負担を感じることなくボランティア活動ができるのではないか。A1やA2あたりの人を対象としたコースを区市町村で作っていただければ。委託の話があったが、全部外注にしないで、担当する支援者や先生がやりやすいように教室を開催するとよいのでは。
- CEFRのA1、A2といった尺度の感覚をボランティアさんに持ってもらうには、自分が学んだ日本語以外の言語で、どのくらいのところに〇がつくかやってみるといい。買い物はできるか、できないかなど。本当にゼロからのスタートの人が対象であれば、最初はCEFRでは判定不能の段階で、20時間やって、ようやくA1の判定が可能くらいになってくる。関係者全員が、とにかくそれが第一歩だと認識して、例えばこのあと他の教室に行き、チェックできるものが増えていくようにする。おそらく今回は読んだり書いたり費やす時間はないと思うが、それを学習者も支援者も認識して必要な場所や方法で勉強していくことによって、チェックが増えていく。

モデル事業では、日本語教室も学習者も同じURLからZoomに入り、3つのブレイクアウトルームに分かれて教室を行っている。ボランティアさんが入る時は、ボランティアさんごとのブレイクアウトルームを作り、そこに学習者を送り込むシステム。しかしボランティアさんに事前に教室の録画を見ても、個別の学習者の様子までは分かりにくかったり、教室の合間合間で会話練習をする時間を作ることは難しい。一方で、対面の教室では有資格者が教えている教室にボランティアさんが入って楽しく活動した事例が紹介された。

ここまでの課題

➤ 今後、自治体主催での初期日本語教育の実施を促していくにあたり、以下のような課題が見えてきた。

(1) 日本語教育の専門家との連携が必要だが、どの団体に、どんな内容を依頼すればよいのか。

行政職員が事業委託や講師派遣などを依頼するケースが多いと思われるが、担当者からは、どの団体と連携すればよいのかが分からないという声が多い。また、日本語教室を開催するためには、何を目的に、どんな内容の教室を開催するかのイメージを持っていないと、日本語学校や日本語教師などと一緒に教室を作っていくことは難しい。

(2) オンラインならではのメリットとデメリットがある。

対面と違い、オンラインだから子育てをしながら、また仕事が終わってすぐに参加できたというケースがある。その一方で、ボランティアさんに参加してもらっても交流がむずかしかったり、学習継続のために地域とどのようにつなげばよいのかなどの難しさがある。

(3) 初期日本語教育を実施するためには、広報や連絡で多言語対応が必要となる。

ちらしなどの広報のほか、問合せ対応、受講決定通知、URL（対面であれば会場）の連絡、アンケートなど、多言語対応が必要となる場面が多く、やさしい日本語では対応しきれない。生活者の場合は英語話者ではないケースも多い。

(4) 多文化共生事業をまだあまり実施していない区市町村では、そもそも広報をすることが難しい。

オンラインの日本語教室は、現在日本語教室がなかったり、在住外国人が少ないため広域を対象とした教室を開催するケースなどで有効と思われるが、普段から外国人住民に情報を伝えるルートを持っていない場合、そもそも広報をすることが難しい。